



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と  
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

## 東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、  
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第26号

2021年9月14日

編集 緒方 なな  
東浦町教育委員会  
SPコーディネーター

### 森岡小学校 牧野SPがすごい！

9月14日、久しぶりに森岡小学校で活動している牧野SPに会いに行きました。少し見ない間に、凄い勢いでパワーアップしていました。雰囲気、支援の様子、最高でした。SP活動を通して、教員採用試験を通して、きっと真摯に勉強してきた彼女だからこそ、今の姿があるのでしょう。圧巻の支援でした。

この日は特別支援学級で、繰り下がりのある引き算の指導を任されていました。1対1で、子どもと向き合って問題に取り組んでいました。「この残りの1を、こっちにプレゼントしよう！」「これだと多すぎるから～……？そうだね！そうそう！出来たね！」笑顔で、テンポよく進めていきます。牧野SPの笑顔も彼女の最強の武器だと思いますが、言葉のチョイスも秀逸でした。これは現場での経験の賜物でしょう。子どもを目の前にして、悩みながら、迷いながら、その時のベストを考えてきたからこそ、言葉の幅が広がっているのでしょう。一瞬の言葉がけで子どもにビシッと伝わります。途中、子どもの集中力が途切れそうになったその瞬間に「見てね」と声をかけていました。この一瞬の判断で、子どもは最後まで集中して勉強に取り組むことができました。しかも凄いことに、牧野SPは子どもを見ずに、その声をかけていたのです。きっと、子どものささいな変化を肌で感じたのでしょう。現場でしか磨かれていかないであろうこうした力を、すでに持っている牧野SP。ボランティア経験をせずに現場に出た先生の、一歩も二歩も先を歩いているだろうな、牧野SP凄いな、と思いました。



牧野SPは、養護教諭を目指しています。「この後は視聴覚室で身体測定の様子を見させていただき  
ます。養護教諭の先生が最初にお話をされるので、しっかり聞いて学びたいです」と話してくれました。  
視聴覚室でも、養護教諭の先生の話を一瞬懸命聞きながら、子どもの様子を見てさりげなく支援をして  
くれていました。担任の先生の様子  
も見ながら動ける牧野SP。学校現場  
に出るまで残り半年。不安も出て  
くると思いますが、きっとこのSP  
活動が現場で生きてくると思いま  
す。最後まで、楽しみながら、たく  
さん学んでいってくださいね。

